

ボストンマラソンは魅力的！！！！

～東京はボストンになれるか？～

永井 英威



神宮 AC のみなさま。こんにちは(はじめまして)。

今年の4月から神宮 ACに入れていただくことになりました永井と申します。激走には3年前の3月から参加しておりますので、何となく顔は見た事ある方もいらっしゃると思いますが、野球観戦が大好きな46歳中年サラリーマンです(最近レッドソックスにもはまっています！！)。何卒、よろしくお願い申し上げます。



さて、2012年4月16日(月)、第116回ボストンマラソンに参加してきました。

私にとって初の海外レース。マラソンを始めて20年、45回目のフルマラソンにして初です。それまでは、国内の市民レースのみでしたので、まさに**“井の中の蛙大海を知らず”**でした。もちろん、日本の中にもまだまだ私の知らない魅力的なレースはたくさんあると思いますし、ボストンマラソンだけが海外レースではありませんので、一概には言えません(偏った考え方もしれません)が、私の知る範囲で、今回感動したこと(魅力的だと感じたこと、東京マラソンほかでも取り入れれば世界から一層注目が集まるだろうと感ずること・・・など)がいくつもありましたので、まずその点からレポートさせていただきます。

何が違うか？

私が魅力的だと感じた(ここが凄い)ポイントは、以下8点。

- ① **年齢、男女別でエントリー基準**を設定
- ② 持ちタイムの早い人順に**4段階の時間差エントリー**
- ③ その持ちタイムは、過去1年のネットタイム

- ④ ゼッケンナンバーは持ちタイム順
- ⑤ しかも、**レース直前約 2 ヶ月前まで持ちタイムの更新 (=ゼッケン変更)が可能**
- ⑥ スタート順も **4 段階の時間差スタート**
- ⑦ レース結果は、翌日の新聞で公表されるが、男女混合の総合順位
- ⑧ しかも、**公式タイムはネットタイム**

すべて、私の知る限り、国内レースではないことばかりです。すべてが極めて合理的な考え方で運営されており、まさに“魅力的!!!”です。歴史が違いすぎるからでしょうか？

東京はじめ、日本各地の主要都市で大規模レースが花盛りですが、こうしたランナー心理をくすぐるような“世界に通用する魅力的なレース”は登場するのでしょうか???

二番煎じでもいいので、いい所は少しでも真似て欲しいものです。

もう少し具体的に説明します。

① **年齢、男女別でエントリー基準**を設定

エントリーできる条件として、年齢、男女別に基準タイムが設定されております。例えば、45～49歳の男子(私)の場合、2013年の大会にエントリーするには3時間25分より早い持ちタイムが必要です。どうしても、高齢になればタイムが伸びなくなるものですが、それを考慮して(歴史的なデータに基づくものなんでしょうか?)、微妙な基準タイムが設定されており、凄い!!の一言です。年齢や男女も考慮せず一律で基準タイムを設定している大会や、くじ運が強くないと参加できない大会なんてどうかと思います。

ボストンは、エントリーできること自体がステータスであり、世界各国から年代別に厳選されたランナーのみが集結するグローバルメジャー(G1レース?)と言えます。

② 持ちタイムの早い人順に **4 段階の時間差エントリー**

エントリー期間は2週間ですが、最初の2日間は、年齢・男女別の基準タイムより20分以上早い持ちタイムの人のみエントリー可能。次の2日間は10分以上早い人のみ。さらに、次の3日間は5分以上早い人のみ。そして、8日目からはようやく基準タイム以上の人全てがエントリーできるようになります(4段階の時間差)。

タイムの早い人から優先的にエントリーできるシステムです。早い人優遇制度ではありませんが、くじ運で決まる大会や先着順の大会よりははるかにいいと思います。

③ その持ちタイムは、過去1年のネットタイム

エントリー時の持ちタイムは、過去1年のネットタイムですから、足元の実力で評価されます。日本では、過去2～3年のタイムで判断してくれるレースが多いと思います。

ちなみに、私の場合、湘南国際マラソン(リストに掲載されていないマイナーレース)の記録証でエントリーしましたから審査に1週間もかかってしまいましたが、わざわざ調べてくれた模様です。東京マラソンはリストに掲載されていますので一発審査OKでしょうけど・・・。

④ ゼッケンナンバーは持ちタイム順

ゼッケンは完全にエントリー時の持ちタイム順です。スタートブロックも徹底的にゼッケン番

号に応じて並べられますから、ゼッケンを見ればその人の足元の実力が一目瞭然ですし、同じレベルの人しかスタート地点の周りにはいないこととなります。

日本みたいに、遅い人でも陸連登録枠で前からスタートできるのとは全く違います。

⑤ しかも、**レース直前約 2 ヶ月前まで持ちタイムの更新 (=ゼッケン変更) が可能**

ゼッケン番号でスタートブロックが決定されるシステムですから少しでも若い番号の方が早くスタートできるのですが、エントリー後でもいいタイムがでた場合、レース直前約 2 ヶ月前までであれば持ちタイムの更新 (=ゼッケン変更) が可能なんです。これ、凄いです！！

ここまで対応する???? 3 万人弱参加するような大規模レースのなのに!!!!

⑥ スタート順も **4 段階の時間差スタート**

まず、女性エリートランナーのみがスタートします。その 28 分後に、男性エリートランナーとファーストウェーブ。その 20 分後にセカンドウェーブ、さらに 20 分後にサードウェーブ。

かなり合理的なシステムです。特に男性と女性のエリート、市民ランナーが同時にスタートする日本の大会は、配慮がなさすぎです。しかも、3 万人もスタートを切れば、最後の人がスタートを切るまでに時間がかかりすぎます。せめてウェーブスタート位導入して欲しい。

⑦ レース結果は、翌日の新聞で公表されるが、男女混合の総合順位

で、レース結果は翌日のポストングローブで全員のタイムと順位が開示されているのですが、ここでも新鮮な感動を覚えました。なんと、男女混合の総合順位。女性のトップランナーは、総合 28 位の所に記載されています。こんなの初めて見ました！！

⑧ しかも、**公式タイムはネットタイム**

では、自分の順位は?? って探しました。が、ゴールタイム周辺を何度見てもなかなか見つかりません。それもそのはず、全員の公式タイムはネットタイムでランキングされていたからです。私の場合、スタートロス約 3 分弱が考慮されていたため自分の名前を発見するまでに時間を要しました。と同時に、これは凄いことだ!! とも思いました。

日本の大会は、あくまでグロスタイムが公式タイムで、ネットタイムは参考タイムって書かれています。やはり、日本でも公式タイムはネットタイムにすべきだと思います。

そもそのコンセプト(大会趣旨)を変える必要がありますから、全て真似しろとは言いませんし、多少手間がかかるかもしれませんが、日本の大規模レースの中で少しでもポストンシステムを取り入れるレースがあってもいいと思います。

先日、ある人との会話で、今年の東京マラソンに出たと言ったところ、最初の反応は、“くじ運いいんだね!!” でした。確かに、大都心を走れる魅力的な大会である、しかも、あまねく平等に参加資格が与えられていることは間違いないですし、来年も東京には出たいですが、残念ながら、今のままでは、“**井の中の蛙大海を知らず**” で終わってしまいかねません。

他の海外レースがどんなコンセプトで運営されているか全く知りませんので異論はあると思いますが、私にとっては海外レースに出るなら何といてもまたボストン!! 来年も行くぞ!! って感じさせてくれる大会でした(早速、355 日前に来年の飛行機だけ既に予約済です)。

ところで、私の戦績ですが、タイムだけ見ると散々たるものでした。

結果は、ネット 3 時間 41 分 52 秒。総合 4,898 位(完走 21,554 人中)。

前半ハーフの通過タイムは、1 時間 38 分 24 秒ですから、後半ハーフは 2 時間以上かけてゆっくり LSD を楽しんで(苦しんで?)しまいました。

もちろん、スタート時点では、サブスリー目指して意気込んでいましたが、時間の経過と共にだんだん目標ゴールタイムを下方修正。しまいには、(言い訳ではありませんが)こうなったらレースを楽しもう！！に変わっていました。ずーーーーーーっと、ハイタッチの連続で両手が痛くなるほどでした。最初は、左側を走り左手、痛くなってきたので途中から右側に寄って右手に。



↓ 終了後はフェンウェイで乾杯！

レースコンディションは、ランナーには最悪(でも応援は最高！！)。

異常気象で、華氏 87 度(摂氏 30.6 度)まで達していたようです。ほとんど日陰がありませんでしたし、従来であればまだ寒い地域ですので、夏のレースほど給水が多くなく、ランナーの体感温度は、40 度位だったのでは！？

裸で走っているランナーが多いのには驚きでした。

大会運営側も暑くなるのは概ね想定できていましたので、大会前から連日、“暑いから注意しろ。もし可能なら出場を控えて！！”といった主旨のメールを繰り返し送っていました。

その結果、26,716 人エントリー中、4,290 人もの人が出場辞退。結局、22,426 人走りました。

うちゴールしたのは、21,554 人。制限時間は緩いので完走率は高いのですが、走った人の約 1 割(約 2,100 人以上)が救護テントに駆け込んだそうです。しかも、そのうち 152 人が病院に運ばれた模様。

私は早々に頑張るのをやめてしまいましたので、幸い救護を受けるほどではありませんでしたが、日本の夏のレース(北海道)よりも何よりも暑かったです。

でも、すごく暑かった分、沿道の応援は非常に多く、ほんとうに楽しく走れました。

来年は、4/15(月)の開催です。一緒に行ける方いらっしゃれば、是非！！！！